

亜種ナミエヤマガラ神津島個体群で見られる高い羽色変異

山口 典之(立教大・理・生命理学)

島嶼に分布する個体群では、本土個体群と比較して、しばしば特異な形質が観察される。これは主に、島嶼に独特な選択圧と小個体群にかかる集団遺伝的効果(創始者効果, ボトルネック, 近親交配)に起因する。進化生態学的に、また生物地理学的に見て、このような個体群は大変魅力的な材料である。また、亜種もしくは近縁種が本土から諸島に沿って分布するような場合、それらの個体群からは、種分化や浸透交雑の研究において、極めて重要な証拠を得られる可能性がある。

今回私は、東京都伊豆諸島の利島・新島・神津島に分布する亜種ナミエヤマガラ *Parus varius namiyei* の神津島個体群において、亜種ヤマガラ *Parus varius varius* や、亜種オーストンヤマガラ *Parus varius owstoni* では見られないような、高い羽色変異を観察したので、報告する。

調査は2003年と2004年に行った。島内に巣箱をのべ273個設置し、繁殖個体を捕獲し、頬の羽色をカラーチャートと照合、写真撮影をすると同時に、各部位サイズを計測した。

結果、神津島に生息するナミエヤマガラの羽色は、特に雄で著しい表現型変異が見られることが明らかになった。羽色の違いは、色相の違い(色合い)によるもので、彩度の違い(くすみ具合)ではなかった。これは、羽色の違いが羽毛に含まれる色素量の違いによることを示唆している。白っぽい個体の羽色は、亜種ヤマガラと非常に類似していたが、これらの個体の体サイズは亜種ヤマガラより大きい傾向にあり、ナミエヤマガラの体サイズ分布に矛盾しなかった。

ナミエヤマガラ神津島個体群で羽色の変異が大きい理由としては、1)神津島が交雑帯である、2)白っぽい個体は実は亜種ヤマガラである、3)高頻度の近親交配が表現型変異を増大させている、といったことが考えられるが、現時点では3番目の可能性がもっともありそうである。